

6年
算数

分数のわり算を使って

ドリル

大洲市立肱川小学校

● 本時のめあて

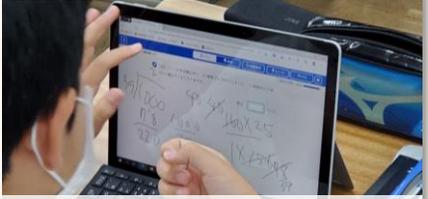
数量が分数で表された場
面で、割合を求めること
ができる。

● ICT活用のポイント

- ・計算ドリルを解き終わった人から、スマイルドリルで補充問題に挑戦する。立式や解き方を画面に書き込みながら解答する。

● スマイルドリルの機能

- ・手書き解答
- ・教科書準拠
- ・シンプルな操作性

	学習活動	ICT活用
一斉 導入	1. 本時の学習内容を確認する <ul style="list-style-type: none"> ・くらべる量と割合が分かれば、もとにする量を求められることを確認する。 	文章題を解く  <p>計算ドリルを解き終わったら、タブレットで文章題に挑戦する。</p>
協働 展開 個別	2. 教科書の問題を解く <ul style="list-style-type: none"> ・解決の見通しを持ち、自分で問題を解く。 ・班になり、みんなで話し合いながら問題を解く。 ・先生は机間指導し、考え方の定着を図る。 ・全体で解き方、考え方を確認する。 3. 計算ドリル帳で問題を解く <ul style="list-style-type: none"> ・計算ドリル帳を使って、ノートに問題を解く。 4. ドリルソフトで問題を解く <ul style="list-style-type: none"> ・計算ドリルを終えたら、ドリルソフトで問題を解かせる。 ・文章題は立式と解答のほか、解き方を書き込むように伝える。 	書き込みながら考える  <p>途中式や考え方をメモしながら問題を解き進める</p>
一斉 まとめ	4. 本時のまとめをする <ul style="list-style-type: none"> ・割合を求める際は、もとにする量、くらべる量、割合を文章から読み取ることが重要であることを伝える。 	



スマイルネクスト 活用ポイント

1. PC画面に立式や解き方を書き込んで解答
2. シンプルな操作性、教科書準拠だからすぐに解き始められる

活用例

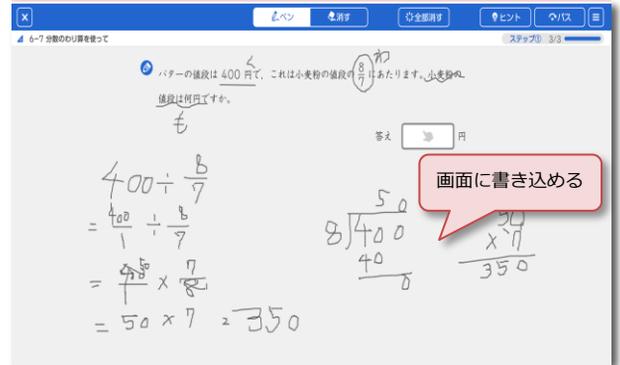
文章題に挑戦

班での活動、計算ドリルでもとにする量の求め方を習得したら、ドリルソフトで文章題に挑戦する。計算ドリルと同様に、立式や解き方を画面に書き込みながら答えを求めている。



[メリットを実現する機能特長]

ドリルソフトには、たくさん問題があり、1問が1画面で表示される。プリントと同様に**立式や解き方を画面に書き込めるので、後から先生が見取ることができる。**



● OnePoint

起動から3タップで解答開始できるから学習を妨げない



実践した先生からのコメント



岡本和也教諭

直感的な操作性と手書きが学習に最適

スマイルドリルは、シンプルな操作性なので児童は学習に集中出来ています。教科書準拠なので、問題とページ数がリンクしていて授業で使いやすいです。以前、利用していたデジタルドリルは手書きが出来なかったですが、スマイルドリルはプリント教材同様に計算などを書き込めるのも良いです。問題も各单元ごとに難易度でステップ分けされていて、ドリルが個のレベルに応じて自動で出題分けしてくれるので定着をしっかりと行えます。算数の授業では、「教科書⇒計算ドリル⇒スマイルドリル」の授業の流れができあがっています。